

平成22年7月28日

高松市長 大西 秀人 殿

高松市香南地区地域審議会
会長 赤松 千壽



建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業
に関する意見の取りまとめについて（回答）

酷暑の候 貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろは、本地域審議会の運営等につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚く
お礼申し上げます。

さて、平成22年5月10日付け高地政第65号により依頼のありました、建設計画
に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見の取りまとめについて、下
記のとおり意見集約を図りましたので回答いたします。

記

1 提出書類

建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見について

建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
1	県道三木綾川線バイパスルート（仮称）の整備	<p>香南町と香川町の地域課題の解消が図られ、県道網の補完にもつながる生活基幹道路として、市当局の御尽力により、市道下川原北線を市道城渡吉光線まで西に470m延伸する道路および香東川橋梁工事の予算化が図られましたものの、県道三木綾川線バイパスルート（仮称）については今後の検討課題とされています。</p> <p>しかし、市道として整備が決定した部分から西へ延伸し、県道円座香南線、さらに、県道千疋高松線までの道路が完成すれば、生活の利便性が格段に向上し、地域が大きく活性化することはもちろん、香川町から香南町を経由し、岡本町や国分寺町方面へ抜ける新たなルートとなります。</p> <p>このことから、高松空港をはじめ、高松西インターチェンジや建設予定の新高松市民病院への重要なアクセス道路として、県道三木綾川線バイパスルート（仮称）の整備を、事業主体である香川県に対して引き続き働きかけをされるよう要望するものです。</p>
2	市道の整備	<p>建設計画の重点取組み事項に位置づけられている市道16路線の整備については、建設計画期間内に完成されるよう要望するものです。</p> <p>また、県道円座香南線バイパスの一部（中間町から西山崎町までの1.9km）が供用開始され、県道千疋高松線を経由して香南地区に入り、高松空港へ向かう車輦が増加傾向にあり、特に「しげなり医院」から県道三木綾川線までのルートについては、今後、高松空港により近い市道南原音谷線を利用する車輦が増え、道路幅員が狭いため大変危険であり、渋滞も予想されますことから、市道南原音谷線を高松空港へのアクセス道として整備されることを要望するものです。</p>
3	県道の整備	<p>県道円座香南線の香南町由佐「由佐天満宮」から川部町までは、交通量が非常に多く、しかも車歩道の分離がなく危険なため、歩道の整備を要望するものです。</p> <p>また、県道三木綾川線の由佐交差点、南原交差点および坂下交差点については、朝夕は慢性的な交通渋滞を起こしていることから、建設計画の期間内に、渋滞を解消するための交差点改良工事が完了されるよう要望するものです。</p>
4	高松空港の機能強化および活性化	<p>高松空港は都心部から30分余りという立地条件を備えており、高松市が四国の中枢拠点都市としてさらに発展していくためには、高松空港の機能強化が非常に重要です。</p> <p>このため、空港周辺に点在する公共の未利用地を有効に活用することが、拠点性をさらに高めることにつながります。</p> <p>そこで、まちづくり戦略計画の重点取組事業として、空港周辺の活性化施策について検討する、「高松空港周辺整備検討委員会（仮称）」を設置されることを要望するものです。</p>

建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
5	香南保育所・幼稚園における幼保一体化の推進	<p>少子化の進行に伴い、安心して子どもを生み、育てることのできる地域環境の整備を進め、地域社会全体で子育てを支援することが緊急の課題となっています。</p> <p>このような中、香南地区においては、平成24年度の供用開始に向け、香南幼保一体化施設の整備が進められていますが、一体化に対応した教職員の人的措置を図るとともに、先進的で個性を伸ばす教育・保育カリキュラムの作成を要望するものです。</p>
6	小中連携による一貫性のある教育の推進	<p>近年、個々の児童・生徒の発達に合わせた教育を行うためには、小学校と中学校で一貫性を持たせた教育をした方が良いということで、小学校と中学校の教育を統合した小中一貫校が全国各地で徐々に開校してきており、本市においても、本年4月、高松第一学園が完全開校されました。</p> <p>このような中、香南地区の小・中学校はそれぞれ1校で、かつ施設が隣接していることから、既存の小・中学校の施設を活用して、それぞれの組織・運営を維持しつつ、人的措置を図りながら、小中一貫教育カリキュラムを実施できる施設分離型連携校として位置づけ、小・中学校の連携をいっそう深めることにより、確かな学力や豊かな人間性等の育成を図られるよう要望するものです。</p>
7	香南小学校大規模改修工事の早期着工	<p>香南小学校の大規模改修工事については、市内全ての小・中学校および幼稚園の耐震化が完了後、その老朽度や緊急度を考慮しながら適切に対応していくとのことですが、香南小学校の大規模改修工事については、合併特例債などの有利な財源を活用することが可能であることから、建設計画の期間内に完成されるよう要望するものです。</p>
8	校区内防犯ネットワークシステムの構築	<p>香南地区では、保育所、幼稚園および小・中学校が連携し、「学校安全管理研修会」を開催し、校区内防犯ネットワークシステムの充実を図っているにも関わらず、校区周辺等での不審者情報が絶えません。</p> <p>今後は、その形式にとらわれず、地域も含めた校区内防犯ネットワークシステムの構築を要望するものです。</p>

建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
9	防災行政無線を利用した一般広報の継続運用	<p>香南地区では、平成5年4月から屋外スピーカーと各家庭の戸別受信機を使って、防災行政無線を利用した一般広報が行われていますが、住民の日々の暮らしに役立つ有益な情報が多く、毎日の生活には絶対欠かせないものになっています。</p> <p>また、高齢化が急速に進展している中で、この一般広報は、耳から簡単に得られる生活情報として、高齢者の毎日の生活をしっかりサポートもしています。</p> <p>一方で、この一般広報が廃止されると、高松市をはじめ、各種団体等にとっては最高の情報伝達手段を失うとともに、住民にとっても香南地区内の各種情報が入りづらくなるなど、合併後のまちづくり面でもデメリットは大きいと思われます。</p> <p>このことから、防災行政無線を利用した一般広報については、将来的にも必ず存続させるとともに、各家庭にデジタル化に対応した戸別受信機を設置されるよう強く要望するものです。</p>
10	遊休農地の有効活用と適正管理	<p>香南地区内でも、遊休農地が広がっている問題が深刻化しています。特に高松空港北側に広がる樹園地では、農家の高齢化に伴い、遊休農地が見受けられるようになり、病虫害発生の原因ともなっています。</p> <p>このような中、香南アグリームでは遊休農地を活用した市民農園が開設され、40区画ある農園には空き待ちの待機者が数十名いるようにも聞きました。</p> <p>高松市として、遊休農地を活用した市民農園の整備等、遊休農地の有効活用や適正管理の具体的な方策の実施を要望するものです。</p>
11	香南アグリームの活性化	<p>香南アグリームは、年間を通して各種体験が行なえる農業交流体験施設ですが、施設の規模や職員の人員不足などにより、市民農園や体験教室がキャンセル待ち状態となっているのが現状です。</p> <p>このような中、香南アグリームの活性化を図るため、</p> <p>①香南アグリームの近隣に位置し、年間71万人が訪れている「さぬきこどもの国」や「さぬき空港公園」と連携を図り、家族連れを中心とした、人を呼び込む周遊ルートを設定すること。</p> <p>②市民農園の区画数と体験施設での人員を増強し、キャンセル待ち状態を解消すること。</p> <p>③癒し系小動物と触れ合うことのできる体験の場を設置すること。</p> <p>④旬の果物をその場で採って、食べられる「体験果樹園」の充実を図ること。</p> <p>など、恵まれた自然環境の中で、子どもたちが楽しく、伸び伸びと「アグリーム＝夢のある農業」を体験できる施設に改善されることを要望するものです。</p>

建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
12	南部地域における特色あるスポーツ施設の整備	<p>高松市南部地域の活性化と市民スポーツの振興のため、整備に当たっては、建設計画にある「南部地域の核となる特色あるスポーツ施設」として、ふさわしい施設となるよう要望するものです。</p> <p>また、地域審議会や関係スポーツ団体等の意見を十分に反映し、南部地域の活性化につながる施設として、速やかに実現されるよう要望するものです。</p>
13	香川町シャトルバスの継続運行	<p>香川町シャトルバスが香南町まで延伸され運行されていますが、利用率は依然として厳しい状況です。</p> <p>しかし、高齢者等交通弱者の公共交通の利便性を確保するためにも、運行を継続するとともに、地域住民のニーズに即した利用しやすい運行形態へ改善されるよう要望するものです。</p>
14	CATVの香南地区へのエリア拡大	<p>本年3月から香南地区においてサービスが開始されたケーブルテレビについては、加入率が低いことから、地域に密着した情報を積極的に提供するとともに、利用料金を低く設定するなど、各世帯が加入しやすい環境づくりに努められるよう要望するものです。</p>
15	支所体制の充実	<p>合併後の住民サービスの拠点として、また、新たなまちづくりの中心となる合併支所の役割は大変重要です。</p> <p>現在、高松市においては、支所・出張所のあり方について、全庁的な体制の中で検討されていると伺っていますが、支所の職員数については、減少していけばいくほど、これまでのサービスの維持が難しくなるとともに、災害時の対応への不安に加え、支所には活気が無くなり、ひいては香南地区全体が沈滞していく心配があります。</p> <p>このため、今後は将来に亘って現在の職員数を維持されるよう強く要望するものです。</p>